



## 大学院の開設にあたって

本学は学部の第一期生を平成16年3月に無事社会に送り出したのを機に、4月より大学院を開設いたしました。

その意義は、看護の分野が高度専門化する中で看護師・保健師免許取得後も専門職としての能力向上と、より質の高い援助を提供できる人材を養成していくことであります。

また、実践や研究能力の研鑽を通して、地域社会における自らの責任を問い、自らを律する場の提供でもあります。

特に近年になって、大学院（修士課程）での人材育成として、看護学の教育・研究者の養成に加えて、高度専門職業人の養成が重要となっており、日本看護協会の認定する専門看護師（CNS：Certified Nurse Specialist）の養成も意図しています。

専門領域の構成は、看護学専攻を設け、2専門領域及び5研究分野としました。即ち、1つは健康看護学領域であり、「看護デザイン」と「コミュニティケア」の2分野から成っています。他の1つは、実践看護学領域であり、「子どもと家族の看護学」、「成人看護学」、「老年看護学」の分野から成り立っています。

石川県立看護大学学長  
金川 克子



現在10名の大学院生に対し、学内の教員はもちろんのこと、全国から有能な専門家を非常勤講師として依頼し、講義、セミナー等が活発に行われています。大学院生が広い視野で、緻密な判断力を有するためにも海外の状況に触れる機会ももてる様に、既に学術協定を締結しているアメリカのワシントン州立大学からの客員教授の講義、セミナーも盛り込んでいます。

今年度は、大学院開設と学術交流の記念式も兼ねてフランス・ルイス教授をお迎えしています。

今後、本学大学院が発展していくには、教職員の一層の努力が必要であります。多くの方々のご意見やご指導をお願いする次第です。

### 目次

大学院の開設にあたって	1	キャンパスライフ	5
大学の主な動き	2	看護学実習の感想	5
第5回入学式	2	私たちの大学づくり	6
大学院の概要	2	サークル活動紹介	6
開学記念特別講演	3	第5回看護大学祭（お知らせ）	7
夏期アメリカ看護研修に出発	3	図書館から	8
オープンキャンパス2004	4	地域ケア総合センターから	8
新任教員紹介	4		



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

看護学部 看護学科・大学院 看護学研究科

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1  
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319  
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>  
E-mail [office@ishikawa-nu.ac.jp](mailto:office@ishikawa-nu.ac.jp)

# 大学の主な動き



## 第5回入学式

平成16年4月5日（月）、第5回入学式が本学講堂において行われ、看護学部入学生93名（女子88名、男子5名）、そして第1期の大学院入学生10名（女子9名、男子1名）の皆さんを迎えました。入学生を代

表して看護学部の磯見冴子さんと大学院の加藤亜妃子さんが力強く宣誓。金川学長の訓辞、谷本石川県知事の挨拶の後、音楽サークルによるピアノ伴奏曲「春に」の歓迎の歌声が会場に響きわたり、教職員や在校生、保護者から大きな拍手が沸き起こりました。



## 大学院の概要

### 高度な専門性を身につけ、明日の看護を担う人材を育成

大学院看護学研究科は専門領域の研究を通じて、それぞれの分野の高度な知識とスキルを備えたスペシャリストを育成し、看護教育、看護研究の発展に貢献することをめざしています。

#### 高度専門職業人の育成

- 各種医療・保健機関において、看護管理はもとより経営的、行政的管理能力と幅広い知識を備えたリーダーとなる人材
- 高度先進医療に対応できる人材、並びに地域、小児、がん、老人看護等、特定領域の専門看護師（CNS）となる人材

#### 看護学教育者・研究者の育成

- 高度で総合的な知識と実践能力を備えた看護学教育者となる人材
- 臨床地域看護実践に必要な基礎研究、及び実用・応用研究を推進できる人材

### 看護学研究科(修士課程)看護学専攻

入学定員10名

看護学研究科看護学専攻は、2つの専門領域と5つの教育研究分野で構成されています。

#### 健康看護学領域



健康看護学領域は「看護デザイン分野」と「コミュニティケア分野」で構成。地域で生活するあらゆる健康レベルの人々、またはその家族に対する総合的なヘルスケアをデザインするための高度な理論・方法・実践能力を兼ね備えた人材を養成します。

#### 共通科目

#### 実践看護学領域



実践看護学領域は「子どもと家族の看護学分野」「成人看護学分野」「老年看護学分野」で構成。各ライフサイクル期にある対象の特性や健康問題の理解を基盤に、対象者に対する看護援助の理論・方法に関するより高度な研究能力と実践能力を兼ね備えた人材を養成します。

## 開学記念特別講演

開学5年目を迎えた5月29日(土)、開学記念特別講演として、講師に南裕子先生(日本看護協会会長・兵庫県立大学副学長)をお招きし、「看護の社会的役割について」のテーマで講演していただきました。在学生、大学院生、県内の看護職者をはじめ多くの参加者が熱心に聴き入りました。

南先生には、貴重な体験談も交えながら、キュアとケアの統合が看護であること、看護の技術専門職として自己を成長させるために自分を支える環境をつくるのが大切である



こと、それには①仲間や先輩との支え合い②家族や友人との支え合い③仕事以外の生活も大切に!④ボランティアなど社会を知る活動⑤健康管理に充分気を付ける!など、具体的にお話しいただきました。

また、新しい共生の時代へ看護からの提案として予防の看護、訪問看護の推進、看取りの看護、福祉施設における看護、さらにはスペースナーシングまで挙げられ、これからの看護の社会的役割の広がり発展に大いなる刺激を受けました。



## 夏期アメリカ看護研修に出発

平成15年3月に結ばれたワシントン大学看護学部(ワシントン州シアトル)との学術交流協定により、本学の国際看護プログラム「夏期アメリカ看護研修」がいよいよ現実のものとなりました。第1回目の研修に参加したのは、19名(2年生1名、3年生10名、4年生6名、大学院生2名)の学生達でした。昨年の秋に行った研修参加の募集にはじまり、この1年間、プログラムが無事終了するよう国際交流委員会を中心となって綿密な準備を行ってきました。特に4月以降は事前学習会、旅行社による研修オリエンテーション、保護者説明会などを開催しました。とりわけ、学生の安全面と健康面に関しては、大学を挙げて対策を打ち立て、安全・健康対策マニュアルを作成しました。

また、出発に先立って学内では8月23日に壮行会が行われ、教職員から心温まる激励を受け、学生達も研修にかける熱い思いを表明してくれました。奇しくも8月31日の出発前日には日本海側に大型台風が吹き荒れ、小松空港からの出発を急遽変更し、チャーターバスで成田空港に向かった学生達でしたが、この時は学生・関係者一同準備していたマニュアルに沿って素早い対応を取ることができました。シアトルでの貴重な体験を通して、学生達は大きく成長することと思います。帰国後の再会が楽しみです。(なお、研修報告は次号で掲載します。)



### ◆夏期アメリカ看護研修スケジュール

月日	内 容
8/31(火)	成田発(機内泊)→シアトル着 大学寮チェックイン・歓迎パーティ
9/1(水)	研修オリエンテーション ワシントン大学見学・ホストファミリー宅へ
9/2(木)	講義「コミュニティ・ヘルスケア・システム」 施設見学「コミュニティ・ヘルスセンター」
9/3(金)	講義「がん患者と家族へのサポート・プログラム」 施設見学「キャンサー・ライフライン」
9/4(土)~9/6(月)	ホストファミリーと過ごす
9/7(火)	講義「米国と日本におけるヘルス・ケア・システムの違い」 施設見学「ワシントン大学病院」
9/8(水)	講義「ホスピス・ケアにおける癒しの機能」 施設見学「B. B. エイズホスピス」
9/9(木)	講義「米国の高齢者施設における高齢者看護」 敬老ナーシングホームにて体験実習 マリナーズ試合観戦
9/10(金)	フォーラム:ワシントン大学看護学部学生とディスカッション ワシントン大学学生との交流・終了式、お別れパーティ
9/11(土)	ホストファミリーと過ごす
9/12(日)	シアトル発(機内泊)
9/13(月)	成田空港着



## オープンキャンパス2004

今年のオープンキャンパスは7月19日（月）に開催しました。幸いなことにこれまでで最多数の参加者（参加申し込み267名）に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。

今年は本学の音楽サークルがピアノと美しい歌声で参加者を歓迎してくれたのですが、それが呼び水となったかのように、参加者と在学生の間に自然な交流が始まり、学内に300名近い若人の歓声が響き、あちこちで、にこやかな、賑やかな、また熱気に満ちた語り合い、触



れあいが見られました。その熱気が伝わってきたのか、公開講義、実習も盛り上がり、入学試験、取得可能な資格、就職、留学情報等に関する相談コーナーを訪れる参加者も例年より多く、担当教職員との間で真剣な応答がなされていました。アンケートの内容も好意的なものが多く、参加された方々にはおおむね本学への理解を深めてもらったのではないかと考えています。看護大学を知っていただくことを目的に、高校生や受験生、高校の先生方、保護者の方々にご参加いただき、来年以降も参加者の期待に応えられるオープンキャンパスを開催していきたいと思っています。

## 新任教員紹介



地域・在宅・精神看護学講座  
助教授

松田 静子

こころを病む人との出会い

若い頃、「酒を飲んで夢を語り、その夢が実現するような掛け橋が必要」と山仲間と講演会や団体登山などを企画し、また、自らもヨーロッパアルプス最高峰のモンブランも登頂しました。今、その情熱をもう少し看護に注いでいたらと思います。

当時の私を臨床看護に留めさせたのは、精神科での出会いでした。自ら変わることの大切さを身をもって教えてくれた彼女など、様々な患者さんとの関わりが今も鮮烈に残っています。後に専門学校の教育に携わりながらも精神科の臨床に惹かれ、地域とのかかわりを学びたいと思い、県立高松病院へ異動させて頂きました。単科精神科病院では運動会やバス旅行もあり、患者さんと一緒に楽しむこともありました。急性期及び慢性期病棟や外来で勤務し、また、訪問看護、デイケア研修などを通し沢山の出会いの中で学ばせて頂きました。こころを病む人が地域で暮らせることの大切さと、まだまだむずかしい現状にもふれてきました。

自らを「しなやかに、したたかに」育みながら、健康の守り手として、「こころのケア」のためにどういう役割が果たせるのか、学生の皆さんと夢を語り合いたいと思っています。



人間科学領域 助教授

武山 雅志

はじめまして

平成16年4月より本学に赴任しました武山と申します。これまでは兼六園の近くにある医療法人財団松原愛育会松原病院で社会復帰部長兼心理療法センター長として、リハビリ関係のコ・メディカル・スタッフ40名ほどを統括するとともに臨床心理士としてカウンセリングや心理検査を行ってきました。地域における活動としてはスクールカウンセラー、被害者支援、電話相談に関わっていますし、石川県臨床心理士会の事務局長をしています。

本学では心理学、臨床心理学をはじめいくつかの科目を担当しています。臨床現場で学んできたものを学生の皆さんにはできるかぎり分かりやすく伝えたいと考えています。

研究領域は心理検査の1つであるMMPIという質問紙法の基礎的研究を引続き行う予定です。またカウンセリングを学びたいという多くの声に応えるためにその教育方法についても研究していきたいと考えています。

立川志の輔のファンだったり囲碁に時間を忘れてたり、年に数回のハーフマラソンと年1回のフルマラソンに汗を流したりして楽しんでいます。どうぞよろしく。

# キャンパスライフ

## 看護学実習の感想



フィールド実習  
1年 井口 智絵

私は将来、どのような人にも気持ちよく感じてもらえる接し方のできる看護師になりたいと思っています。どのような人にも気持ちよく感じてもらえるには、その人その人の個性を重視した接し方が重要なのではないかと考え、「あうんの呼吸」という、相手の立場に立って相手を理解するおもてなしをされている花紫（山中温泉）で実習させていただきました。花紫では、従業員の立場としての実習だけではなく、お客の一人として従業員に迎えられるお出迎え体験もしました。花紫の方々に満面の笑みで迎えられた時、自分を受け入れてもらったという気持ちになり嬉しく感じました。相手を観察すること、立場変換をすること、相手に「あなたのことを考えていますよ」と伝える大切さを学びました。そして、接する上で、相手ばかりに重点を置くのではなく自分を振り返ることも必要ではないかと感じました。この実習で考えたこと、感じたことを糧として自分自身成長していきたいと思えます。



フィールド実習  
3年 山下 裕子

私は、人の感情の表出に関わる仕事をしている人々を取り巻く環境、健康管理を知るという目的で、七尾児童相談所へ実習に行きました。人の心理的な部分に触れるというのは、とてもデリケートな領域であり、援助するにあたって留意しなければならないことが多くあると思います。看護という職業も人間を相手にし、身体面だけでなく精神面、社会面など様々な側面を見ていくことが求められます。人の様々な面を視野に入れて関わるには、自分自身が対象を受け入れることができるキャパシティがないと、援助はできないと思います。自分の身体の健康はもちろんですが、精神の健康を保つことの必要性も感じました。

また、フィールド実習はテーマを自分で決めて実習するという能動的なものであり、今までにない経験となりました。先生と学生で話し合う場もあり、私自身、自己を見つめなおす機会にもなりました。今回の実習で感じたことや学んだことを今後、生かしていきたいです。



在宅看護学実習  
4年 中野 弘美

4年前期に在宅介護支援センターと訪問看護ステーションで実習しました。在宅療養者には、療養に対する不安や家族の負担になりたくない療養者としての思いと、住み慣れた環境で家族と一緒に生活したいと願う生活者としての思いがあることに気づきました。また家族は、介護を生きがいに感じ、療養者と一緒に暮らせることを幸せに思う気持ちが大きい場合もありますが、始めは意欲があっても、ゴールが見えず、評価されにくい環境や日々変化する家族状況で、介護に対する思いが不安定になる場合もあります。このような様々な思いの背景にあるものを捉え、在宅療養における療養者と家族の不安や介護負担を少しでも除去できるよう、ケアマネジャーや訪問看護師などが関わっています。様々な職種の専門的な視点から、対象の望む生活の実現に向けて社会資源・地域ネットワークを有効に活用できようにかかわっていくことが重要だと感じました。



地域看護学実習Ⅱ  
4年 佐藤 明菜

私は、この実習で健康教育や家庭訪問、健診、地域ケア会議などの事業に参加し、地域で働く看護職にとっても魅力を感じた。自分は何をすべきで、住民にとって本当にこれでよいのかと模索しながら活動している保健師に出会うことができたからである。「住民が本当に必要で過不足ないサービスを受けられるように、常に提供するサービスの意義・目的を頭に置き、自分の実践を振り返った時に『よかった』と思えるように努力したい」と語ってくれたことがとても印象的だった。病院とは違い人々の生活の場に入り込み、全ての人々を対象にしてより健康に生活することを支えるという役割には大きな責任がある。また、信頼関係を築き続ける力、多職種をつなげる調整力、サービスの開発・企画力と客観的に評価する力、人々の価値観やニーズを見つめる感性等たくさんの能力が保健師には求められる。とても難しいことであるが、信念を持って努力するその保健師の姿を見て、自分の看護師像を膨らませることができた実習だった。

# 私たちの大学づくり

自治会長 2年 鮫島真理恵

自治会では学生が主体となって活動を行っています。学生大会を始め、スポーツ大会の企画や、大学祭の運営の協力などがあります。活動の内容は多様で、イベントの企画からポスターの作成や看板の作成など、派手なものも地味なものもあります。

私は「今年は学業だけではなく、もっと積極的に自分自身を磨こう」と目標を立て、自治会長をやってみようと思いました。そして実際に自治会長として自治会の活動をしていくと、思っていたよりもずっと難しく、また責任も重いことがわかりました。しかし、難しさよりも何よりも、仲間と何かを作り上げていくことの楽しさや充実感を感じています。そして副会長をはじめ、自治会の仲間たち、そして在学生たち、見守ってくださっている先生方の協力があったからこそ、私は自治会長として活動していけるし、自治会も成り立っているのだということに気がきました。失敗することもあり、苦勞することも増えたけれど、その倍以上に喜びが大きく、自治会長を務められて本当に良かったと思っています。



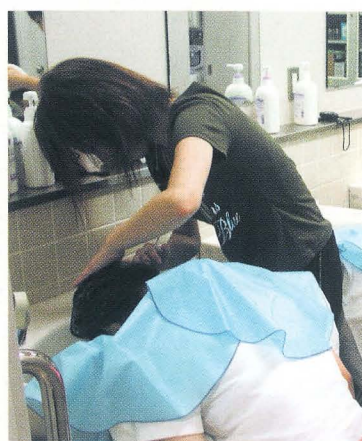
本学は開学して5年目を迎え、少しずつ伝統が積み上げられてきつつあります。わたしもその伝統を積み上げていく一役を担っていきたいと思っています。自治会長の任期も半分を終え、残るは後期いっぱいとなりました。残りの活動を大切に、また精一杯努力し、在学生、卒業していった先輩方、また新たに迎えるだろう新入生にますます本学を好きになってもらえたらいいなと思います。

## サークル活動紹介

### NLS : Nursing Lovers' Society

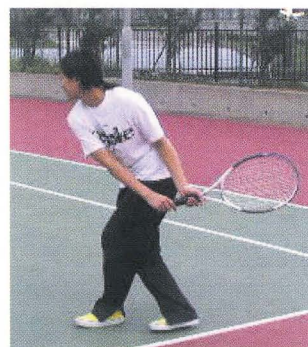
NLSでは、自分たちで看護師役、患者役を体験しながら「患者さんにより安全で安楽なケアを行う」ことを目標に掲げ活動しています。看護のケアについて先輩と意見を交わしながら援助方法を模索しているとあっという間に時間が過ぎてしまいます。このサークルを通じて、援助することは容易ではないと実感し、看護技術の大切さに気付くことができました。また、先輩や友人たちから学ぶこと、看護に対する熱心さや姿勢に励まされる機会も多々あります。

2年生になると、9月の実習で初めて患者さんを受け持つことになります。まずは患者さんをよく見ることから始めたいと思います。後期からは2年生が中心となってサークルを引っ張っていく立場になります。今までに学んだ技術をベースに、実習での経験を活かしながら、患者さんへの安全で安楽な「看護技術」を追求していきたいです。



### テニスサークル

私たちテニスサークルは、火曜日・金曜日の週二回テニスコートで練習をしています。部員数は30名ほどで、初心者・経験者問わずに毎週和気あいあいと練習しています。火曜日にはコーチも参加してくださるので、ラケットを握ったことも無いという人も安心して練習出来ると思います。また、自分の実力を試してみたいとの希望があれば他校との練習試合をセッティングしたりも考えております。サークルメンバーみんな本当に仲が良く、顧問の先生も明るく面白いので、楽しいキャンパスライフを送れること間違いなしです！ぜひ覗きにきてみてください。



# 第5回看護大学祭

～きまっし! 域<sup>2</sup>看大祭～

(日時) 10/30(土)、31(日)

## ♥ ハンセン病講演会(場所:講堂)

国立療養所栗生楽園入園者自治会会長

講師 藤田 三四郎 氏

「ハンセン病は怖い病気である」という偏見・差別は、いまだに解消されていません。ハンセン病のこと、偏見や差別のこと、そして人権について学び、人の尊厳を認め、ともに生きる社会を作りましょう。一人間として、またこれから医療従事者になるものとして、差別問題についてみんなで考えてみましょう。

## ♥ あなたの体へイエローカード!!

本当に健康ですか?(場所:成人・老年看護学実習室)

- \* 身長と体重から肥満度チェック
- \* 骨密度の測定(骨密度とは?骨密度をあげるためには?)
- \* 日ごろの生活についてのアンケート&相談
- \* 手洗いチェック ~あなたの手洗いまちがっていませんか?~
- \* 血圧測定…高血圧、低血圧はなぜいけないのでしょうか?

**この機会に自分を知ってください!!**



## ♥ プチナース体験

【体験内容】

- \* 足浴
- \* 車イス
- \* 妊婦体験
- \* 人形を使った  
育児体験



1日目

- 9:00 ~ 開会式
- 10:00 ~ ハンセン病講演会
- 12:00 ~ 高松中学校ブラス部による演奏会
- 13:00 ~ 健康相談、ソーラン節、かほく市講演会
- 13:30 ~ プチナース体験、〇×クイズ(大人編)
- 16:00 ~ 第1回ハードル上映会
- 17:00 ~ 大学祭委員によるラインダンス

その他、

- ・音楽サークルによる **天使の歌声**
- ・ボランティアサークルによる **ソーラン節**
- ・ **模擬店**
- ・ **縁日**
- ・ **フリマ**
- ・ **子供部屋** など 2日間しています。

## タイムスケジュール

2日目

- 10:30 ~ 第2回ハードル上映会
- 12:30 ~ 音楽サークル
- 13:00 ~ ソーラン節
- 13:30 ~ プチナース体験、〇×クイズ(子供編)
- 14:00 ~ 第3回ハードル上映会
- 15:30 ~ ソーラン節
- 16:00 ~ ビンゴ
- 17:30 ~ ミスコン
- 18:00 ~ 閉会式

今年のテーマは**地域密着と看大らしさ**です。看護大を知り、看護を知ってください。今までとは少し変わった看護大を見に来ませんか?ぜひ来て下さい!!!!

## 図書館から

### 図書館の利用について

今年度4月から、図書館をとりまく環境が刻々と変化しております。

文献複写サービスについては、これまで著作権法上では認められていなかったファクシミリ等を使用した複写サービスが、大学図書館間相互貸借（以下「ILL」）加盟館のみではありますが、実施することが出来るようになりました。

また、これまで国立大学のみを対象に実施されてきたILL文献複写等料金相殺サービスについては、4月から国内の公私立大学・学校図書館・公立図書館・専門図書館にまで対象範囲が広がりました。

当館は文献複写サービスをスムーズに行うために、料金相殺サービスへの参加を検討していきたいと思っています。

なお、多くのご希望におこたえして、通常の開館時間は10月1日（金）から、試行的に午後9時（現行は午後7時）までとなりますので、どうぞご利用ください。

今後とも当館の活動にご理解とご協力をお願いします。

スタッフが変わりました。  
木村館長以下  
長田、辻本、油谷  
が担当します。  
よろしくお願いします。



## 地域ケア総合センターから

### 地域ケア総合センターの事業について

地域ケア総合センターは地域に開かれた看護大学として機能を果たすための附属機関として設置されています。この機能は、人材育成・指導助言・調査研究・情報発信・国際化促進の5つで、機能毎に事業を実施しています。

事業について、今年度新たに企画した研修等を紹介させていただきますと、看護大学に大学院看護学研究科が開設されたことから、従来実施している各種研修事業に加えて、看護管理者研修として「専門看護師シンポジウム」及び看護学術セミナーを6月に実施しました。また、指導助言事業として、地域の各種相談ニーズに対応するため、10月から新たに

「看護電話相談」事業を実施します。相談窓口は「親子関係・育児不安相談」「子どもをなくした家族等の心理相談」「高齢者ケア・介護についての相談」の3つです。各相談は17年3月までは月1回実施されます。この看護電話相談事業については、県保健福祉センター、市町村等の担当者の方々からも事業実施のご理解をいただくことができ、実施の運びとなりました。看護大学としても、微力ではありま



看護管理者研修・専門看護師シンポジウムから



思春期の感染症予防講座から

すが、県民や看護・介護等関係者の方々の相談に応じ、お役にたたせていただきたいと思います。

さらに、今年3月に看護大学の第一回生を社会に送り出しましたので、人材育成研修として「卒業生活動支援研修」を計画しています。研修内容等が決まり次第、卒業生にはお知らせいたしますのでお待ちください。

看護電話相談 専用電話 076-281-8316

発行 ● 石川県立看護大学広報委員会

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1  
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319